

感染症対策室 担当：眞崎、松本 電話：095-895-2466 内線：4680

マダニ類が媒介する感染症に注意しましょう

4月以降県内では、ツツガムシ類やマダニ類が媒介する感染症である「つつが虫病」「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」「日本紅斑熱」の報告が増加しております。

これらの疾患は、病原体を保有するマダニ類等に咬まれることで起こる感染症です。特につつが虫病は、例年よりも早く患者報告があっているので注意してください。

病原体を媒介するマダニ類等は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。

これから夏場を迎えると、レジャーや農作業など屋外で活動する機会が増えることから、感染予防等の啓発にご協力をお願いいたします。

1. マダニ類媒介性感染症の県内発生状況（2023年5月11日時点）

年	2018		2019		2020		2021		2022		2023*	
	全国	長崎	全国	長崎	全国	長崎	全国	長崎	全国	長崎	全国	長崎
つつが虫病	456	8	404	1	538	11	544	14	481	7	61	3
SFTS	77	4	101	8	78	6	110	6	118	13	25	5
日本紅斑熱	305	19	318	15	422	18	490	28	460	22	29	2

※2023年の全国の発生件数は、2023年第16週（1月から4月23日まで）の感染症発生動向調査週報（IDWR）の速報データです。

2. 感染予防策等

- マダニ等に咬まれないようにすることが重要です。
農作業や庭仕事、レジャー等、屋外で活動する際には、
 - ① 長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用して肌の露出を少なくしましょう。
 - ② 作業後は身体や服をはたき、マダニ等に咬まれていないか確認しましょう。
 - ③ 帰宅したら、入浴しましょう。
- 吸着しているマダニ等を見つけた場合は無理に引き抜かず、できるだけ医療機関（皮ふ科等）で処置してもらいましょう。
- マダニ等に咬まれた後(数日から2週間程度)に発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診し、マダニ等に咬まれたことを伝えましょう。
- 動物に付着しているマダニ等に咬まれないようにするためには、
 - ・動物を飼育している場合、過剰な触れ合い（口移してエサを与える、動物を布団に入れて一緒に寝ることなど）は控えてください。
 - ・動物に触ったら必ず手洗い等しましょう。また、動物のマダニ等は適切に駆除しましょう。
 - ・飼育している動物の健康状態の変化に注意し、体調不良の際には動物病院を受診してください。

- ・野生動物は、どのような病原体を保有しているかわかりません。野生動物との接触は避けてください。SFTSについては、ウイルスを保有しているイヌやネコからヒトに感染し発症した事例が報告されています。
- ・体に不調を感じたら、早めに医療機関を受診してください。受診する際は、ペットの飼育状況やペットの健康状態、また動物との接触状況についても医師に伝えてください。

マダニ類やツツガムシ類は草むらや藪などに生息しているダニです。「ダニ」といっても、食品等に発生するコナダニや衣類、寝具に発生するヒョウダニのように家屋内に生息するダニとは種類が異なります。



ヤマアラシチマダニ



フタトゲチマダニ



アカツツガムシ

出典：長崎県 ダニからうつる病気の予防 リーフレットより抜粋

この情報提供は、マダニ類が媒介する感染症に関する正しい知識の普及と注意喚起を目的とした広報活動です。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第3条及び第4条において求められているように、患者等の人権尊重には御配慮と御理解をいただきますようお願いいたします。

(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律)【抜粋】

第三条 国及び地方公共団体は、教育活動、広報活動等を通じた感染症に関する正しい知識の普及、感染症に関する情報の収集、整理、分析及び提供、感染症に関する研究の推進、病原体等の検査能力の向上並びに感染症の予防に係る人材の養成及び資質の向上を図るとともに、社会福祉等の関連施策との有機的な連携に配慮しつつ感染症の患者が良質かつ適切な医療を受けられるように必要な措置を講ずるよう努めなければならない。この場合において、国及び地方公共団体は、感染症の患者等の人権を尊重しなければならない。

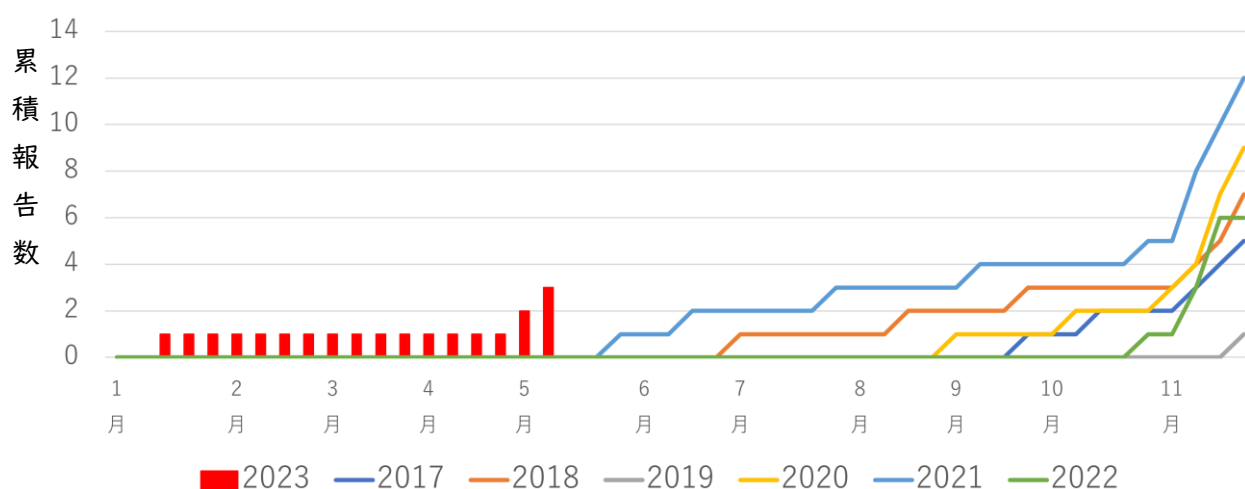
第四条 国民は、感染症に関する正しい知識を持ち、その予防に必要な注意を払うよう努めるとともに、感染症の患者等の人権が損なわれないようにしなければならない。

つつが虫病とは

つつが虫病リケッチア (*Orientia tsutsugamushi*) という細菌を保有するツツガムシ (小型のダニの一種) に咬まれることで感染して起こる病気です。潜伏期間は5日から14日で、高熱と発疹 (主に体幹部) で発症し、重症の場合は死に至ることもあります。発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、ほとんどの症例にみられます。有効な抗菌薬があるため、治療に用いられます。

全国的には、春～初夏、および秋～初冬の2つの発生ピークがみられますが、関東から九州では、秋から初冬に多くの患者発生がみられます。

つつが虫病

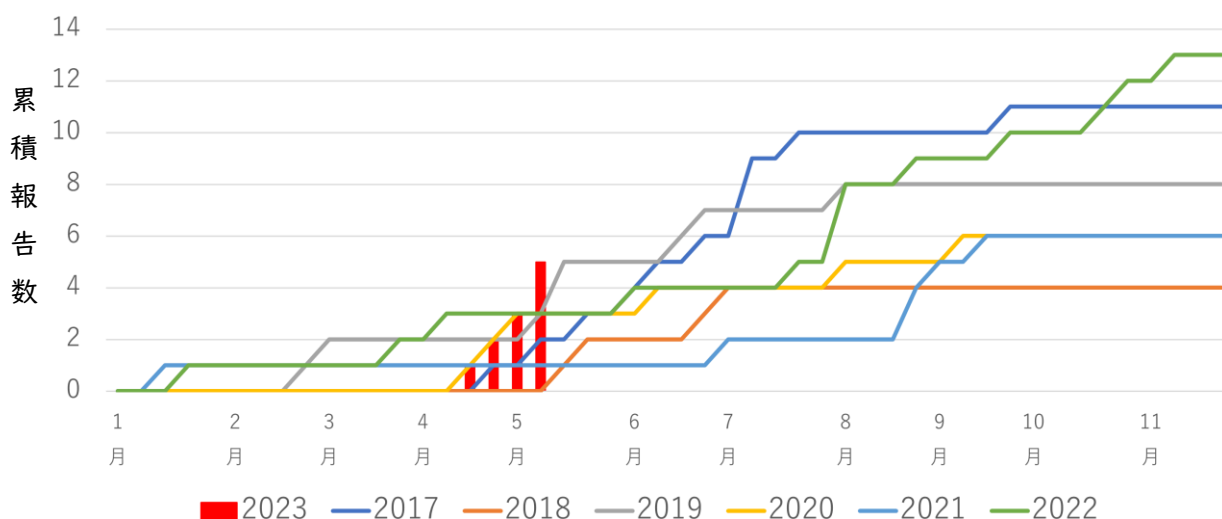


重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) とは

SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染して起こる病気です。潜伏期間は6日から2週間で、主な症状は発熱、消化器症状で重症化して死亡することもあります。ワクチンや有効な抗ウイルス薬はなく、治療としては対症療法が主体になります。

近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染にも注意してください。

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

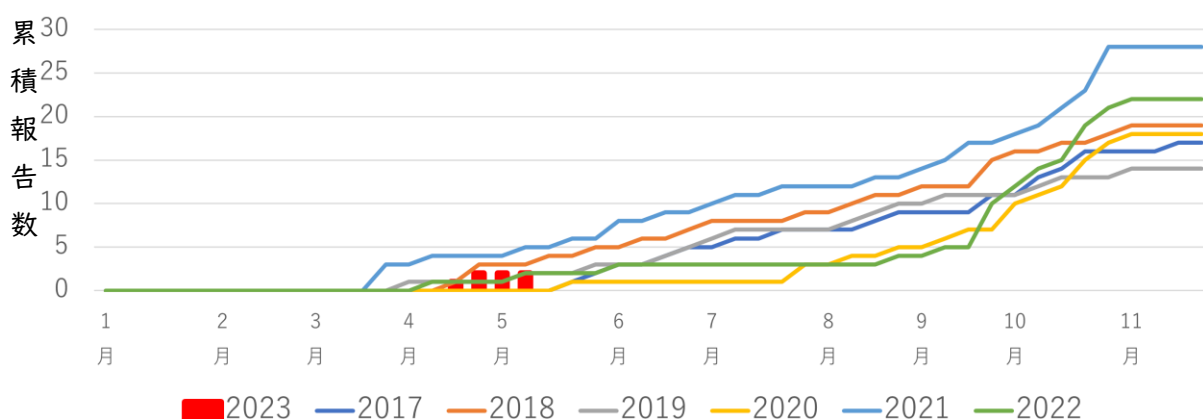


日本紅斑熱とは

日本紅斑熱リケッチア (*Rickettsia japonica*) という細菌を保有するマダニに咬まれることで感染して起こる病気です。潜伏期間は2日から8日で、頭痛、高熱、倦怠感発疹（体幹部より四肢末端部に比較的強い）を伴って発症し、重症の場合は死に至ることもあります。発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、ほとんどの症例にみられます。有効な抗菌薬があるため、治療に用いられます。

発生時期は、天候の影響を受けるものの、春から秋の長期にわたるため注意が必要です。

日本紅斑熱



【参考】

厚生労働省 ダニ媒介感染症

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

厚生労働省 つつが虫病について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000173061.html>

厚生労働省 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>

厚生労働省 日本紅斑熱について

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-04-23.html>

長崎県ホームページ ダニ媒介感染症の予防

<http://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/299534.html>

長崎県リーフレット ダニからうつる病気の予防

<http://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2013/06/1372319143.pdf>